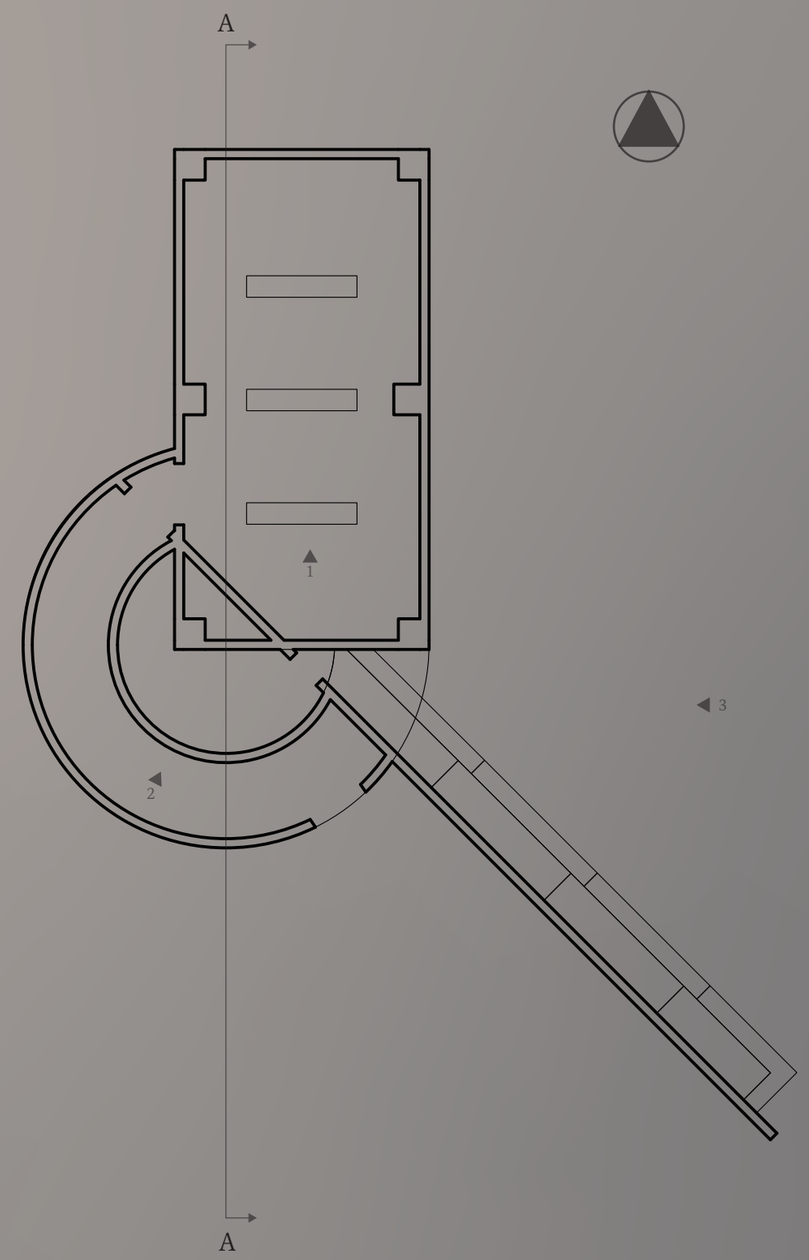
移ろいと共に生きる

～変わらない街と移りゆく川～

日本の都市は、コンクリートの無機質な塊となり、不動・不変の空間へと姿を変えた。
しかし川は、山の空気を運び、日々表情を変え、決して同じ瞬間は存在しない。
その儚く有機的な流れに、人々は自然と引き寄せられ今日も集まるのではないか。
その様子に私は新しい和を見出した。

かつての「和」は、整然とした美しさや静寂の調和を重んじた。
しかし、今日本の人々が求めているのは、むしろ移ろいと共存し感じることではないだろうか。
固定された窮屈な街に、時間の変化、移ろいを取り入れること。
新しい「和」とは、不変の中に移ろいを宿し、自然の流れと共鳴することなのではないか。

移ろいを取り入れることで、日本の風景は新たな調和を生み出し温かさを取り戻すだろう。